

第1章

医学の定義とその使命



1 医学とは何か

病気や死は、生物にとって避けることのできない現象ということができよう。したがって、人類がこの地球上に出現するのと同様に、さまざまな病気も出現したわけである。おそらく、旧石器時代の太古から、病気の時には、種々の薬草や昆虫、動物の臓器、鉱石などが経験的に薬として使用されてきたものと思われる。呪術なども用いられていたが、これは現代でも、一部の地域では病気の治療に用いられている。

人類がゆっくりと進化するにつれて、部族の中に祈祷師をかねた医術者が生まれてきたわけである。しかし、これはあくまで医術であって、医学ではない。医術が医学へと脱皮できたのには、紀元前500年頃に生まれたギリシャの医師ヒポクラテスの力に負うところが大きいといえよう。

では、**医術と医学はどのように違うのだろうか？** 医術は、基本的にはある個人に限定された知識や能力であり、時に、ある一族に世襲されるものである。医術は、秘伝的なものであり、広く世間に公開されるものではない。一方、医学は基本的にはその技術や知識を共有し、広く公開されるものである。

それでは医学を定義してみよう。医学とは、「**心や身体の病気を治し、健康を維持・増進させる学問**」である。さらに、もう少

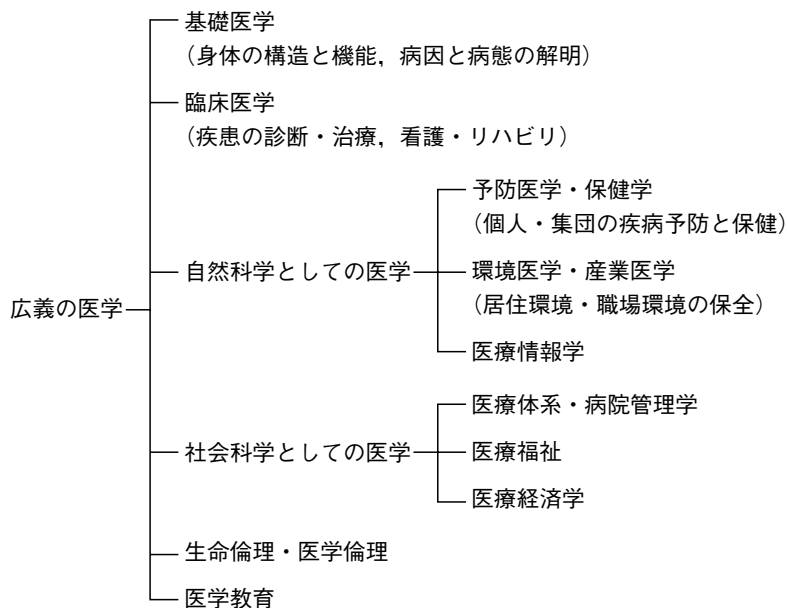
し詳しく表現してみると、「医学とは、自然科学の法則を基にして、個人の生命現象を取り上げ、病気の原因や症状の起こるメカニズムを解明し（**基礎医学**）、病気を診断・治療する方法を確立し（**臨床医学**）、個人や集団のために発病を予防し、健康を維持する（**予防医学**）学問」であるということができる。

広義の医学には、自然科学としての医学の他に、社会科学としての医学、生命倫理、医学教育なども含まれる。図1に医学の構成をシェーマで示した。

1) 自然科学としての医学

基礎医学や臨床医学、予防医学以外に、よい居住環境、安全な職場環境の整備を目指す環境医学と産業医学がある。その他に、

図1 ● 医学の構成（日野原：一部改変）



近年、情報科学の進歩とコンピューター技術の確立・普及に伴い、医学研究や日常診療において、画期的な情報処理方式が導入された結果、医療情報学という専門領域があらたに加わった。

2) 社会科学としての医学

この領域には、医療体系・病院管理学、医療福祉、医療経済学が含まれる。

3) 生命倫理

医学倫理 (medical ethics) ともいわれ、医療の倫理的側面を扱うもので、遺伝子工学や高度先進医療における“医療の人道主義”に関する学問である。

4) 医学教育

医療のすべての領域における従事者、すなわち、医師、看護師、作業療法士、理学療法士、介護福祉士、臨床検査技師、放射線技師などの教育・育成のみならず、社会や患者にとって最良の医療を提供するために、生涯を通じた自己教育・生涯教育の場を提供することである。

2 医学の使命

医療に従事する者は、現に病気で苦しんでいる人、すなわち患者を治療し、その苦痛を和らげるために、誠心誠意努める必要がある。さらに、現在まだ病気にかかっていない個人や集団をさまざまな疾病の罹患から防御しなければならない。患者の治療や疾患の予防に際しては、医師、看護師、保健師、臨床検査技師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、介護福祉士、放射線技師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどが、力を合わせてこれに当たる必要がある。

従来、医師（メディカル）に対して、その他の医療従事者をパラメディカル（二次的医療従事者）と称していた。しかし、今や、これらの医療従事者は、近代医療を行うに際して欠くことのできない専門職である。したがって、最近では、医師と協力して医療に当たる医療従事者という意味で、**コメディカル（医療協同従事者）**という名称が用いられている。医師とコメディカルを総称して、**ヘルス プロフェッショナル**または、**ヘルス チーム**という場合もある。このようなチームの中で、医師は、病気の診断・治療・予防において、いわばオーケストラの指揮者の役目を演じ、看護師は、医療を受ける患者の側に立って、患者のための生活的配慮をする、いわばコンサートマスターの役割を演じる。その他のコメディカルは、それぞれの楽器を演奏して、すばらしい交響曲が奏でられることになるわけである。

「**医は仁術である**」と古くからいわれている。しかし、これは、医療に従事する者は報酬を期待せずに、社会に奉仕すべきであるということではない。労働に対する適正な報酬は受け取るが、また同時に、病める者のために、誠心誠意、最高の治療を行わなければならない。医療行為をする場合には、患者個人の人格を尊重し、また個人が集まって形成される社会を尊重しなければならない。医療従事者は、**病気を治すのではなく、病人を治す**ということを決して忘れてはならない。

第2章

医学の歴史



1 近代医学への道程

人類の出現とともに、病気や外傷に対する原始的な治療や呪術が用いられてきた。紀元前5,000年頃には、中国に神農と称する医の神様がいたという。エジプトでも、紀元前2,900年頃にインホテブという神格化された医師がいた。インドでも紀元前1,500年頃に書かれたベーダ医典があり、それによると、すでに外科療法も発達していた。紀元前400年頃には、ギリシャのコス島を中心に活躍した**ヒポクラテス**（Hippocrates）が現れた。彼は、健康と病気を自然の現象として科学的に観察し、医学を魔法から引き離れた人物で、経験科学の生みの親といわれている。彼は、病気は血液、粘液、黄胆汁、黒胆汁の調和が乱れるために起こると考え、これを回復するためには、適切な食事、新鮮な空気、十分な睡眠、運動と休息が必要であるとし、さらに薬物を使用した。また、彼の書いた「**ヒポクラテスの誓い**」は長い年月、医師の道徳律とされてきた。

ヒポクラテスの誓い

患者の利益になると思う治療法を選び、患者に害となる方法は取らない。死に導くような薬は与えない。流産もさせない。患者の身分や性別による差別をしない。秘密は人に漏らさない、など